

平成24年12月28日

腹腔内体液を排出させる吸引管の外套が体内に残されたまま
手術が終了した事例

過日、当院において体内遺残の医療事故が発生いたしました。60歳代食道癌の患者様の手術の際に、腹腔内体液を排出させる吸引管の外套が体内に残されたまま手術が終了しました。術後この遺残物に気付くことなく、10日あまり経過した後腹部CTで遺残物が発見され、再手術により摘出するに至りました。患者様にはこの遺残物のための有害事象は現時点では生じておりませんが、本来必要でない手術を行う結果となってしまいましたことを、患者様ならびにご家族様に心よりお詫び申し上げます。本件に関し、当院の医療事故調査専門委員会において検討された再発防止策を徹底すると同時に、今後の医療安全に関する警鐘的事例として日本医療機能評価機構に報告いたしました。

以上